

守ろう きれいな水

三木 琉聖

小郡市立三國小学校

ぼくは、毎日使うトイレやお風呂料理やお皿を洗った後の水がどうなるのかを調べるために、宝満川浄化センターへ見学に行きました。

宝満川浄化センターでは、下水をためて、まずは、大きなごみを取りませ、広い池に流しながら細かいよごれもそこにしずませて取って行きます。また、び生物の力を借りて、六〇八時間かけて、下水をきれいにします。この後も、どろをしずめて、きれいな水だけを流し、しょうどくをして、ようやく川へ流しています。

このように、宝満川浄化センターでは、二十四時間、三百六十五日、ぼく達が使った下水を集めて、きれいにしています。そして、かんきように悪いえいきょうをあたえないようにして、自然にかえしていることを見学で学びました。

そこでぼくは、「きれいな水を守るために、ぼくたちにできることは、何があるのだろうか。」と、考えました。

まず、料理で使う油や料理で出た生ごみは、新聞紙やせん用の油とりをすることで、お水が排水管に、つまることをふせぐことができます。

次に、風呂場が出るかみの毛や小さなごみどもこまめに取ること、下水管のつまりやこしょうをふせぐことができます。

最後にもう一つ考えました。この夏ぼくは、海に、よく遊びに行き

ました。遠くから見ると、きれいな海、近くで見ると、きたない海です。なぜなら、砂はまには、ペットボトルやつり糸ふくろやビニールなどの色々なゴミがたくさんおちていたからです。これら多くのゴミは海に入っても足に引っついてきます。「これでは、下水処理場で、いくらがんばってきれいな水を流しても、意味がないんじゃないか。」と、思いました。このままでは、水はよごれ、魚もいなくなるし、きたない海のままです。ゴミのポイ捨てをしないことで、川や海をきれいにすることができます。

ゴミの中には、外国からながれてきたものもたくさんありました。これは、日本だけの問題ではなく、世界の問題だと思えます。世界中の一人一人が、のむ水を大切に、使う水のりを考え、流すゴミやすてるゴミをへらしていき、ゴミのポイ捨てをやめればきれいな川や海になると思えます。

水を大切に、そしてきれいな水を、ぼく達で守っていかねければ住みにくい町になります。ぼく達が安心して住むことができるように、きれいな水を守っていかうと思えます。